

果樹の簡易保温施設における自動換気装置

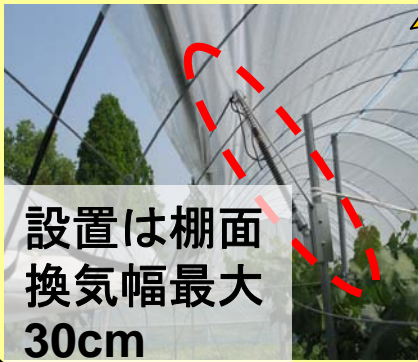
広島県のブドウ産地では、既存の簡易被覆施設(トンネル栽培)を利用し、収穫時期を前進化させる簡易保温施設栽培を行なっている。この簡易保温施設栽培は、加温ハウスに比べて被覆資材と新梢や花穂などの距離が近接しているため、新梢、花穂および葉に高温障害が発生している。この高温障害は、温暖化により今後増加すると考えられるため、電源不要な自動換気装置を用いた省力的換気方法の検討を行った。

自動換気装置と設置状況

自動換気装置による開閉状況



自動換気装置

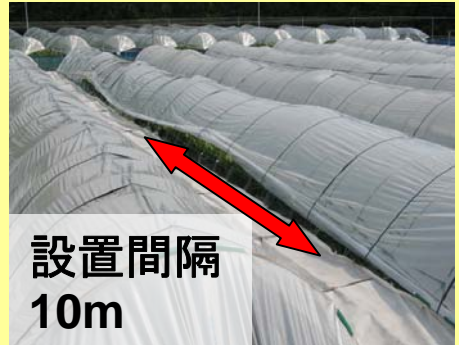
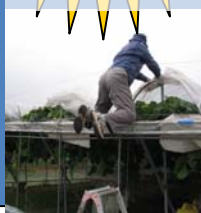


設置は棚面
換気幅最大
30cm

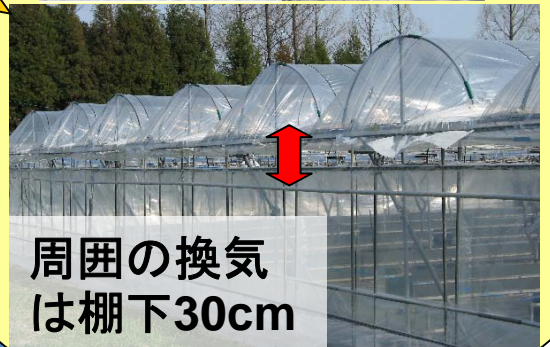
・電源不要

・手作業で行われている換気作業の省力・軽労化を図る。

使用前

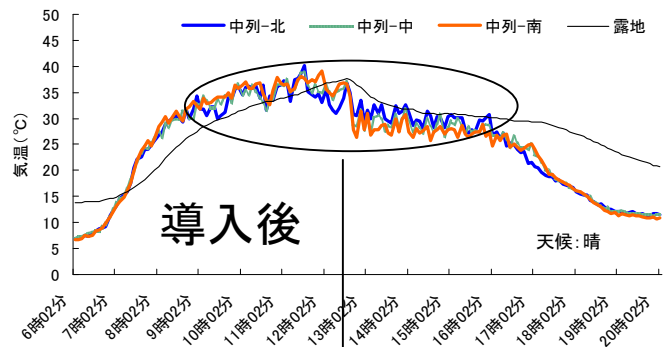
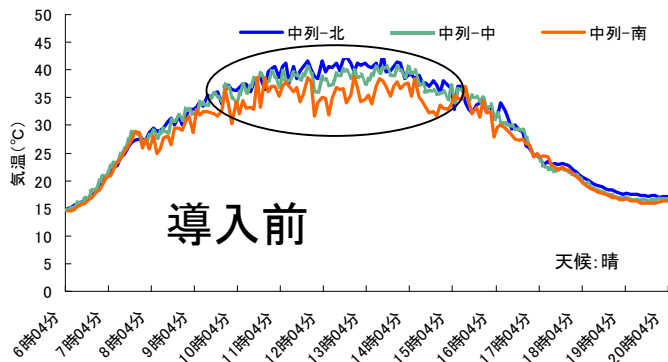


設置間隔
10m



周囲の換気
は棚下30cm

施設内の気温推移



自動換気装置の導入により労力を使わず施設内温度を下げる事が可能となり、また、施設内温度のバラつきが減少する

本研究は、農林水産省委託プロジェクト研究「地球温暖化が農林水産業に及ぼす影響評価と緩和及び適応技術の開発」において実施しました